

村上市総合計画審議会 会議録

会議名	第1回 村上市総合計画審議会
年月日	令和5年6月29日(木) 15:30~16:50
会場	村上市生涯学習推進センター 2階 大中会議室
出席者	<p>【委員】 青山委員(オンライン)、飯塚委員、岩佐委員、佐々木委員、宍戸委員、仲委員、長島委員、八藤後委員 ※欠席 畠山委員</p> <p>【村上市】 須賀政策監 企画戦略課：大滝課長、山田(美)参事、忠課長補佐、本間副参事、中山主査、渡辺主査、山田(浩)主査</p>
議事内容	
[進行] 事務局	1 開会 〈あいさつ〉
政策監	2 政策監挨拶 〈あいさつ〉
会長 副会長	3 委嘱状の交付 〈政策監から委員へ委嘱状を交付〉 〈委員自己紹介〉
政策監	4 正副会長の選出 会長に宍戸邦久委員、副会長に八藤後靖子委員を選出 〈会長あいさつ〉 〈副会長あいさつ〉
事務局	5 諮問 〈政策監から宍戸会長に諮問〉
会長	6 議事 (1) 村上市総合計画審議会の進め方(案) (資料1、2、3、4) (事務局が資料を説明)
事務局	○資料1「4 令和5年度のスケジュール」 令和5年度は審議会を3回予定しており、11月下旬に中間報告をするということだが、令和6年度はどのようなスケジュールか。
会長	令和6年度は、令和5年度の進捗管理をしていただく形になる。2か年分について、どれだけ進捗したか最終答申をいただきたいと考えている。
事務局	令和6年度の最終答申の時には、令和4年度及び令和5年度の取組について答申するイメージですね。第2期村上市総合戦略の改訂についても令和6年度に答申があるのか。

事務局	総合戦略の改訂は、今年度で作業を完了する予定である。
事務局	(2) 第3次村上市総合計画及び第2期村上市総合戦略の変更(案)(資料5) (3) 第3次村上市総合計画等の進捗状況(令和4年度分)(資料6、7) (事務局が資料を説明)
会長	○ホームページでの資料の公開について この資料の内容がこのまま公開されるのか。例えば議論をした結果、資料の記述、表現を変えた方がよいとなった場合には、変更後の表現で公開されるのか。それともこの表現のまま公開されるのか。
事務局	会議資料として、このままの状態で開催する。委員からいただいたご意見等については、会議録として公開する。また、その意見に対して市としての考え方をまとめたものを、第2回審議会で示す予定であり、その部分は別途公開する。
会長	今日は第1回でもあるので、いろいろな意見や質問に対する市当局としての考えが次回示されるということですね。
委員	○資料7「第3次村上市総合計画の進捗状況」について 総合計画と総合戦略でそれぞれの目標値が違っており、それを整理して記載してあるが、これをいずれは統一することは難しいのか。この時間で説明いただければ、理解しがたく、またこれを市民の方に説明するのは相当大変だと思う。どこかの時点で目標値を一緒にして、総合計画も総合戦略も同じ目標にはならないものか。
事務局	おっしゃる通りである。計画の位置付けとしては、総合計画という大きな枠の中の重点戦略として、総合戦略が位置付けられている。次の総合計画策定時で、総合戦略と一体的な計画策定をしたいと考えている。総合戦略と総合計画の終期が1年ずれているところは、終期を合わせるよう今回改訂し、次期からスタートを同じにしたい。
会長	関連意見だが、やはり見やすさや数値の整合性を踏まえると一体的であるべきである。ただし、総合計画と総合戦略の関係性で言うと、総合計画が、総合戦略を含むと私は認識しているし、そうあるべきだと思う。なぜならば、総合計画とは、村上市が自主的主体的に作り上げる計画である。一方で総合戦略とは、国、閣議決定などを受けて策定するもので、受動的である。もちろんそこに載ることによって、登載事業には交付金などの恩恵があることは事実ではある。一体的に整備策定したとしても、総合戦略は総合計画に含まれるもの、下位もしくは内部という位置付けであって欲しいと思う。
委員	○計画や資料のわかりやすさ、構成について 審議会委員の目線というよりは市民の目線で、資料を見ると、いろいろな項目がたくさんあり、分かりにくい。市民の方の中には、どこに相談したらいいのか、もしくは自分が一体何で困っているのかすら明確でない方も多くいると思う。その悩みが計画のどこに位置しているのか、もう既に計画の中に解決策がまとめられているのかどうか。そういうこと等も含めての審議の場であるとは思いますが、実際生活している方にとってわかりやすい状態であるかどうかを、もう少し考えていかなければいけないと感じる。そういった点では、実際これだけの資料で「ホームページに載っています」と言われても、それを調べられる方ばかりで

事務局	<p>はないので、もう少しわかりやすく、文章が平易な方が、誰にとってもわかりやすいのではないかと。やはりかしこまった形式でなければいけないものか。</p> <p>行政資料は、どうしても固い文章が目立つというのは正直なところかと思う。現在ホームページの他、今取り組んでいるSNSにおいては、若い人が目にすることも多いため、より親しみ易い表現を使うように心がけているところである。</p>
会長	<p>関連意見だが、言葉遣いが丁寧になったとしても、変わらないものは、縦割りである。それぞれの事業については、担当者が一生懸命やっているが、事業がたくさんあって細分化されているので、これを初めて見た市民の方は、それこそどうやって調べていいのかわからない。それをわかりやすくするための「手引き」、「指南」として、この総合計画が市民の皆さんにとって身近なものになるためには、市民が何かこんなことで困っているが、この計画をこのように見れば、実は市役所でこんなことを考えているということがわかりやすく記載され、しかも言葉遣いが丁寧ならなお良いと思う。要は市民に身近になるような、見やすさ、言葉遣いに加えて、正に横串である。その意味においては、今般村上市は、「SDGs」「子育て」「デジタル」ということで、横串の取組をするのは、とてもいいことだと思う。</p> <p>総合計画の検索のしやすさ、調べやすさを工夫されたいと思う。例えば大学でも、シラバスという授業概要において、「〇〇先生はこんな事業を開講しています」と掲載するが、学生たちにとってはわかりにくい。そのため「キーワード検索」を取り入れることによって、「〇〇学部の△△教授がこんな授業やっているんだ、ちょっと履修してみようかな」というように、学生が履修したい授業にたどり着く。そういうキーワード検索的な見やすさ、これは正にデジタルでは可能であるので、検討をお願いしたい。</p>
副会長	<p>昨年の検討結果を踏まえて、このような記載にさせていただいたと思った。資料7も、非常に見やすくなり、よかったと思う。目標値も目標修正ができており、すでにクリアした目標は、更に高い目標と書いてあるし、逆に届かなそうな目標を下げてもあるので、実現可能性の高い目標設定にしていると感じた。計画としては非常に良いものができたので、計画通り進んでいるものは、良しとし、進んでいないものについてはどうなのか、どうやったら上手くいくのか、という取組をされていくのだと思う。</p> <p>○資料7の28ページ「5-3 広報公聴」について</p> <p>また、今のわかりにくさの話題から言うと、市報なども結構よく読むが、市報は非常に読みやすいと思っている。ただ、情報伝達手段としてLINEやTwitterも加えているということだが、職場では今までのメールマガジンは皆さん繋いでいるが、公式LINEについては、職場の同じフロアは20人ぐらいいるが、ほぼ知らないという状況である。私はもう公式LINEを繋いでいるが、LINEは、友達登録しないといけないので、いかにお友達を増やすか少し苦労している。ちなみに昨日私がPRしたのでその分お友達が増えていると思う。ちょっとしたきっかけが大事で、広めていくということが必要と思う。</p>
事務局	<p>副会長から、市報について非常に読みやすいとお褒めの言葉をいただき、担当課長としてうれしく思う。同時に、公式LINEについても、当課が所管であり、今現在約5,785人お友達登録している。また、防災メール等のメールマガジンの登録者が16,000人ほどであるが、そのメールにLINEの登録をしましょうということで、案内したら一気に800人ほど増えた。LINEの登録者をメルマガ登録者と同</p>

事務局	<p>数の 16,000 人を目指し、これから取り組んでいきたい。副会長がおっしゃったように、まだまだ浸透していないので、どうぞ皆さんもご登録の方、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>副会長から今ご意見をいただいたことについては、LINE の友達登録増やそうということで、2～3 週間前からメールや市報で流したうえで、友達登録が何人増えたか、何をやった時が効果的なのかを日々検証している。</p>
委員	<p>○資料 7 の 28 ページ「5－3 広報公聴」「5－4 デジタル」について</p> <p>今出た話に関連するが、村上市内の携帯電話の不感地域など、いわゆるインフラ、通信インフラの整備状況というのがどのくらいかというのは、計画の表には出てこないが、ある程度市役所として把握されているかと思う。現状どれぐらいの数字になっているか、お伺いしたい。</p> <p>LINE の話が出たが、特に携帯は今、例えば何か災害が起こった時、携帯電話不感地域があると、情報を獲得する手段としては結局何も使えなくなってしまう。やはり人が行き来する例えば道路や鉄道等は多分重点的に、不感地域はなくすようにされていると思うが、エリアとしての整備状況がどれぐらいなのかというのが、気になった。通常、携帯会社は人口カバー率で、よく物を見るのだが、実際にエリアのカバー率という意味だと、それよりもかなり低くなるはずである。災害に遇うのは場所を選んでくれないので、エリアカバー率のデータの把握が必要かと思う。</p> <p>もう一つ申し上げますと、例えば携帯の不感地域や 5G を整備した地域で、直接業者と話をすると、どうしても様々な設置費用や採算の面でなかなかうまくいかないところがあるが、総務省の外郭の信越情報通信懇談会でデジタル田園都市構想のインフラ整備関係で、信越情報通信懇談会の中のワーキンググループが仲立ちをして、その信越総合通信局の方で協議の場を作る取組を今やっている。これは昨年から発足して私が座長を引き受けているので、情報提供したい。今後、そのような不感地域があり、どうしてもここが必要だというのがあった場合、直接業者と相談するとどうしても採算の話になってしまうので、信越総合通信局が仲立ちに入ること、もう少し協議が進むかと思っている。</p> <p>市の計画の表には出てこないが、情報伝達手段としての携帯を活かしていくためには、どうしてもインフラの整備状況を常に把握しておく必要があるので、参考にしていただければと思う。</p>
事務局	<p>大変申し訳ございませんが、どの地域がカバーされていないかという数字を持ち合わせてないので、後程調べてご提示する。</p>
委員	<p>人口カバー率で言うとサービス事業者は結構いい数字を出してくる。村上市のような広い都市になると人口カバー率だとそこそこの数字だが、エリアカバー率になるとかなり厳しいということが往々にしてありえる。</p>
事務局	<p>人口カバー率について、例えば村上市だと集落間が離れていて、その間の道路が繋がらないとか、ちょうど山の影が繋がらないとか、そういうケースがあると思うが、そういった場合はどうなるのか。</p>
委員	<p>私も完全に把握し切れている訳ではないが、おそらく今最初におっしゃったその居住地域でどれぐらいカバーしているかというのが、やはり人口カバー率の話でこれはサービス業者が数字を出していると思う。</p> <p>一方で、ご指摘のあった例えば居住地域と居住地域の間がカバーできているか</p>

	<p>というのは、いわゆる全体のエリアのカバー率というような形で出されて、確か私の以前の記憶だと、最初総務省が5Gのコンテストやコンペ、周波数の割当を実施した時には、そういう後者のエリアカバー率は、「いつまでにこれを達成しなさい」と言っていたような記憶がある。しかし、現実整備をやりだすとそんなにすぐに進むわけではないので、今は多分「人口カバー率でここまで」という話になっていると思う。そのため、それぐらいエリアを、例えば今ご指摘のあった集落と集落の間の道路がちゃんとカバーできるかというところまでいくと、現実はかなり厳しいというのは、私も承知しているが、ご存知の通り、デジタル田園都市国家構想により、その辺をきちんと整備していくというような話で総務省は動き出しているところでもあるので、必要なところをピックアップして、相談していく気運にはあるものと承知している。</p>
委員	<p>○資料7の2ページ「(屋内遊び場整備事業) 来場者数」について</p> <p>仕事の関係で、市民の方と関わったときに、屋内遊び場が雨の日だととても混雑して、なかなか使い勝手が良くないというような話があった。実際資料を見ると、目標値に対し実績が10倍以上の数字が出ており、需要とのバランスがとれていないとも感じる。子育てしやすいまちを目標にしながら、みんなが足りないところでは現実と乖離している部分があるとも思われるので、施設の充実の面をどのように進めていくのかということも検討いただければと思う。</p>
事務局	<p>こちらの屋内遊び場は、おかげ様で盛況であり実績で23,345人となっている。今後、こちらの旧神納東小学校の施設については外の運動場の整備等の計画もある。</p>
事務局	<p>補足であるが、屋内遊び場については今、旧神納東小学校において体育館だけが使える状態になっている。今年度校舎の方も改修を始めて、遊び場とはならないが、子どもに関する活動や子育てサークルの活動の場などの用途に使えるように、今後、年次計画で改修する計画である。屋外グラウンドについても、遊具を置いて遊べる施設にしていくという計画である。</p> <p>また、仮に駅前周辺をどういうふうにしていくかという検討の中にも、屋内の遊び場があったらいいねというようなアイデアは出ているが、まだ構想の段階なので、まだ何も決まっていない。</p> <p>利用状況については、1年目ということで、約23,000人という大勢の方が、来ていただいているが、2年目3年目とどうなっていくのか、もう少し推移を見たいところである。</p>
事務局	<p>○資料7の28ページ「5-3 広報公聴」「5-4 デジタル」について</p> <p>先ほどの携帯のエリアカバーだが、人が住んでいる地域においては100%ということで、不感地域はゼロということであった。</p>
委員	<p>いわゆる居住地域に関しては100%であるなら、今後は居住地域と居住地域を繋ぐ道路やそういうところの話になると思う。</p> <p>あともう一つ今のやりとりをされている間に思い出したことがあり確認したことがあるので情報提供したい。携帯電話の会社が今ほとんどのエリアというのは多分4G第4世代の携帯で整備されていると思うが、一部まだ、第3世代の3Gのエリアが確かあったと思う。それはこの村上市のエリアではなく、多分柏崎市から向こうの海沿いのエリアだったと記憶しているが、この3Gが、2026年3月末までにサービスを終了するという形でドコモが最後になると思うが、確かauはすでに終了しているはずである。その辺の人口稼働率のところに、3Gのみのエリア</p>

	<p>が含まれたりするといずれ巻き取られてしまうので、その辺の世代も併せて確認をしておかれた方がいいと思う。</p>
会長	<p>おそらく携帯電話会社はそこを順次4Gに置き換えて、いずれ3Gを巻き取るという形で動いているので、4Gに確実に追いかけていくと思う。</p>
委員	<p>現状はどうなっているのかは把握しておいた方がいいと思う。</p>
委員	<p>居住地エリアの中の話だが、平林集落で市民の方からauが圏外であるというお話があった。私もauだが別件で平林集落の中心部に行った時は、本当に圏外で通じない。実際そのポイントだけなのかどうかというところまでは確認できていないが、auだと平林のあたりで電波が入らない地域があるのは、私も経験しているので、居住地で確実にカバーし切れているかどうかというのはちょっとわからないところもあると思う。</p>
委員	<p>○資料7の2ページ「(屋内遊び場整備事業) 来場者数」について ○資料7の22ページ「体力テストでの優位項目の割合(中2：対全国平均)」について</p> <p>子育ての遊び場についての関連だが、子どもの体力のことが最近気になっている。やはりコロナ禍で、体力測定の数値としては令和3年度より下がっているのだろうか。令和4年度56%ということで、実感として見ていても肥満者が増えているかなと思う。家の中で籠ってゲームをしていたり、外に出ていけないとか、雨の日に遊ぶ場所がないとか、原因はいろいろあると思うので、ぜひ先ほど言われたような出かけられる場所を造っていただきたい。</p> <p>筋肉がつくピークは20歳から20代で、そこからその子達の将来的なフレイルやサルコペニア等の予防に繋がっていくので、今の小・中学校、高校の時に体を動かして筋力を貯められるかというのがとても大事である。子ども達の今だけを見ると元気でなんともないが、先を見て、元気で長生きというところで考えていくと、高齢者だけではなく、子どもの頃からやっつけていかないといけないと思うので、ぜひ動ける場所を造っていただければと思う。</p>
事務局	<p>屋内遊び場の話であったが、スポーツ施設の方も順次整備する計画もあり、そこで体を動かすとか、また地域のスポーツクラブとも連携しているので、中学校の部活動において、今後地域移行も始まることから、その辺でも運動不足解消については、取り組んでいきたいと思う。</p>
委員	<p>遊び場や運動場ができるというのは、やはり市の中心部というか、村上地域に集中するものか。もう少し中心から離れてというのはあるのか。</p>
事務局	<p>村上市は広いので、村上の中心部だけあればよいということではなく、総合計画内の土地利用構想において、例えば北部拠点地域とか南部拠点地域などが位置付けられている。例えば山北エリアが何もなくてよい訳ではなく、行政機能や拠点を整備する必要があるということは考えられているので、村上市の場合は、全てが村上地域中心、一極集中とはならない。</p>
仲委員	<p>○計画や資料のわかりやすさ、構成について</p> <p>昨年の進捗会議において私から「いろいろな取組があって総花的で、優先順位が分かりにくい」と申し上げ、「総合的に調整に取り組んでいく」とお答えいただいたところである。今回の新しい資料は前回の資料と比べてスッキリしたという</p>

	<p>印象を持った。私も子ども子育て会議で、同様のまとめの作業をやったが、いろいろあって分かりにくい。会長からもキーワードのお話があったが、なるべくわかりやすく紹介するなど、見だしをつけるなど、そういう工夫をして、市民の方にわかりやすいサービスを提供してはどうかという意見があった。そこに追加しての提案である。市の取組はまだまだやはり総花的なところがあるので、我々の業界、大学や研究の世界で「シソーラス」、様々な事項の優先順位、上下関係を含めて整理をしていくということも必要であると考えている。どれが上位の取組であり、どれが下位の取組であるということ、もう少し明確に整理していき、それで市民の方々も、「下位レベルのことであったらここで問い合わせをする」「中位レベルだったらここで問い合わせをする」というように段階的に、道筋をしっかりと立てておくことが必要だと考えている。</p> <p>もう一つ、私は保育士や幼稚園教諭の国家資格を与える学科の教員をしているが、厚労省と文科省はやはりお役所で、例えば細かく「この授業行ったらそのために、予習復習時間は何時間とれ」というような通達が両省から来る。国の方針の通り1週間の授業を組んだら、そこに全部入れても授業数が収まりきらないという、非常に滑稽なことが起こっている。</p> <p>国は毎年新しい取組で、文科省、厚労省として頑張っているところを見せて、予算を獲得するためにやっているのだろうが、それを処理する現場では、処理しきれない状態が学生にも教員にもものしかかってきて、非常に苦しい状況である。今取り組んでいることや国の法令等を見直して、減らせるものは減らすということを頑張らないといけない。</p> <p>これはやはり市役所などの行政機関でも同様であり、総花的になっている。そこはやはり減らせるものは減らしていくべきである。先ほど「シソーラス」、ハイレベルの方から整理していくということ、積極的に取り組まないと、市民サービスが充実したものにならない。学生の教育活動について私もそういうことを感じているので、市もいろいろな取組において、優先順位や上下関係の視点から、積極的に整理していくことをお願いしたい。</p>
会長	<p>優先順位、シソーラスの考え方だが、上位の取り組み、下位の取り組みということですね。それはある意味「ロジックモデル」を立てればわかると思う。ロジックとは、それぞれの事業において「どういう関係性にあるのか」ということ。それと減らせるものは減らしていくということであり、これはまさにスクラップアンドビルドの行政改革では決まり文句になっているところなので、そういった取組が必要ではないかのご意見を伺いました。</p>
事務局	<p>行政も限られた予算で、限られた人材で、やっているの、全てにおいてできればいいが、新しいものが入ってくると、どこか我慢するところが出てくるというのは現状としてある。その中でも、やるべきこと、または縮小なり、どこかと統合できるようなものかどうかなど、しっかりと見極めてやっていく必要があると感じている。</p>
会長	<p>行政機関が優先順位をつけてスクラップアンドビルドを進めるのはなかなか難しい。それは一つ一つの事業に理屈があるからである。儲かるからというのではなく、こうすれば市民のためによくなるということからいろんな理屈から一つ一つの事業が生まれ、成り立ってきた。そのため、その理屈をスクラップするのは、ある意味否定する訳なので、それ相当の大きなエネルギーが必要になる。</p> <p>なかなか優先順位づけが難しく、結果として総花的になってしまう。行政の仕事はそういうところが見受けられるから、どうすればいいか。やはりそこはロジ</p>

<p>会長</p>	<p>ックを立てることである。ロジックモデルにより、理屈を立てるということと、市民のニーズがどこにあるかということ、市役所自身ができれば数値化して説明する。数値化することによって、こういうニーズが優先順位だからこちらを優先すると説明すると、スクラップしやすくなる。切られる人たちは理屈が非常にある事業なのに切られると、不満を持つ。その不満を持つ人にも納得してもらうためには、やはり客観的な数値で表わせる指標によるスクラップアンドビルドが必要である。</p> <p>○総合計画のPRについて 「総合計画作りました」「令和4年に作りました」など、市民説明会や小中学校の総合学習等で、「これが村上市の総合計画です」というような、PRする機会はあったか。</p>
<p>事務局</p>	<p>総合計画を含め、計画は作って終わりではないというのは十分承知している。学校での子ども達への説明は実施していないが、村上商工会議所青年部やいわふね青年会議所、いわゆる若手の方からご依頼を頂き、1時間ぐらい話をした実績はある。また新潟看護医療専門学校村上校、村上高等学校に出前講座の一環として、話をさせていただいた。他に宍戸会長のゼミでも話をさせていただいているところである。</p> <p>おっしゃる通り、もう少し世代を下げて、小学生中学生等を対象に、身近に感じてもらえて、印象に残るような取組があるとよいと思う。総合計画は令和3年度に策定し2年目であるが、仕掛けを考え周知を図っていきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>その際のアドバイスであるが、先ほど申し上げた、検索のしやすさとか見やすさ、生活に身近になるような見方で言えば、例えば「子育てにおいて、夜泣きの赤ちゃんをどうしようという時に、この総合計画ではどのような行政サービスを提供してくれますか、はい、ひいてみましょう」などはどうか。今は紙の冊子がなくてもデジタルでも十分できる。</p> <p>総合計画は、「市民生活にとって実は身近なものだよ」、「市長をはじめ市役所の職員は、あなた方のためにこんな施策を展開しているよ」という集大成である。例えば総合計画の概要などのリーフレットを配布して、商工会議所や青年会議所の皆さんに説明されたと思うが、商工会議所や青年会議所はビジネスだから一生懸命聞いてくれる。やはり生活者の視点から、「総合計画って実は身近な市の政策集ですよ」ということを知ってもらいたい。事務局においては、「工夫したい、仕掛けを考えたい」ということなので、ぜひとも、総合計画を引かせたり、ページをめくらせるような取組や仕掛けを通して、総合計画が市民生活にとって身近な政策集だと知っていただけるような取組をされるよう、お願いしたい。</p> <p>7 その他 (1) 次回の開催予定 (事務局が説明)</p> <p>8 閉会 (あいさつ)</p> <p style="text-align: right;">以上</p>